



平成15年11月23日、結成10周年を記念し念願の「あすか組」とのジョイントコンサートを開いた(社会体育館)

新たな伝統への鼓動

「村民の手で新しい伝統を育てよう」——。
村では村民が総参加できる
新しい郷土芸能を育てようと、
平成5年、創作太鼓のチーム「ふだい荒磯太鼓」を誕生させた。
あれから14年——。
今、「ふだい荒磯太鼓」に新しい歴史が、
生まれようとしている。

道程

村の活性化願 創作事業始める

平成5年、村は創作太鼓による新しい郷土芸能づくりに取り組んだ。この取り組みは村始まって以来のことで、その目的には村の活性化へつなげたいという強い願いがあった。

参加を呼び掛け 26人が集まった

この創作事業は、地域の歴史・文化をテーマとした芸能の育成で、古里への愛着や誇りを持つてもらおうのが狙い。さらに、過疎や人口の流出対策も含め、特に若年層を対象

村の郷土芸能は長い歴史と伝統を持つ鶴鳥神楽が代表的存在。しかし当時村民の間では、誰でも参加でき、自由に楽しめる芸能を求め声があり、他市町村で人気のあった和太鼓が注目されていた。創作太鼓「ふだい荒磯太鼓」誕生の始まりだった。

にコミュニケーションと共同意識の向上を図るものだった。
村は県の地域活性化事業調整費を含めた約1300万円の事業費で和太鼓や衣装の購入を決めた。
創作・指導に当たるのは大阪・天王寺で舞太鼓「あすか組」を主宰する飛鳥大五郎さん(58)。全国の和太鼓による地域興しに数多くかかわっている和太鼓の第一人者だ。
村では「やる気のある人なら誰でも参加でき、若者を中心に文化をつくっていく」と参加を呼び掛け、そして、20代から50代までの26人が名乗りを上げた。



舞太鼓 あすか組

1990年、飛鳥大五郎氏により創作された和太鼓グループ。和太鼓の力強さに日本舞踊のもつ優雅なフォームを融合させたスタイルで、日本の美を再認識させる舞台を創造し、国内外で公演を行っている。大太鼓のソロ、力強い群奏、リズムカルな組太鼓、尺八、シンセサイザー、また歌舞伎、能、狂言を取り入れた華やかな舞太鼓の世界は、各作品が個性に溢れ、ダイナミックな演奏と華やかな舞台創りは国際的にも高く評価されている。

- 主な出演イベント／松本400年祭 平安建都1200年まつり イスタンブール国際音楽祭 オランダ花博 五大陸音楽祭
- 主な海外公演／フランス エジプト トルコ オランダ 台湾 ハワイ ロサンゼルス

古タイヤ使って 3カ月間の稽古

「ふだい太鼓」(仮称)が発足したのは平成5年5月31日。その発会式が自然休養村管理センターで開かれた。

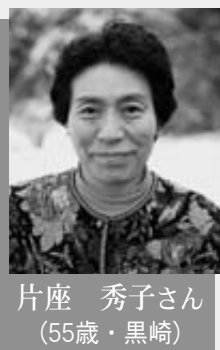
発会式には26人の希望者のうち男女19人が出席。稽古日や推進組織の設立を決め、会長には現会長である嘉藤明男さん(53)を選任した。

飛鳥先生が初来村した6月3日、早速古タイヤを使っての稽古が始まった。その稽古は8月まで続いた。ほとんどの人は和太鼓を打った経験がなく、プロの指導に皆が戸惑った。先生の指導は1回3日間。月に1回程度行われた。先生が来村するまでの間は、与えられた課題を週3回の稽古で乗り切った。しかし、さまざまな理由で退会するメンバーもいた。

待ちに待った日 和太鼓が届いた

8月末、和太鼓が届いた。今日から和太鼓を使つての稽

今でもリズムが よみがえります



片座 秀子さん (55歳・黒崎)

古だ。皆の心が躍る。12月のお披露目を目指し、稽古に拍車がかかった。

ついに完成した ふだい荒磯太鼓

9月、飛鳥先生から曲が発表された。先生が普代の海岸に激しく押し寄せる太平洋の荒波を見ながらイメージした曲「ふだい荒磯太鼓」。楽譜が配られた。メンバーの1人速直美さん(38・旧姓石花)は当時を振り返り言う。「和太鼓が届いたとき、楽譜を渡されたときは興奮を隠せなかつたです。その曲がそのままチームの名前になった。まさに村の風土にふさわしい曲であり名前だった。

発足当時私は41歳で会の中では年上の方でした。稽古は厳しかったですが、お披露目までは無我夢中で稽古をし、家でも暇をつくって拍子を覚えた記憶があります。その後、家庭の事情で会を退きましたが、イベントなどで荒磯太鼓の発表を見ると、今でもリズムがよみがえってきます。とても貴重な経験ができました。

12月5日、飛鳥先生を招き、ふだい荒磯太鼓発表会が社会体育館で行われた。半年間にとびだした稽古を積み重ねてきた15人のメンバーが会場いっばいに新しい文化の鼓動を響かせた。
発表会には約600人が詰め掛け、村民の皆さんからは「村にふさわしい勇ましい芸能が誕生した」と盛んな拍手と声援が送られた。
その後、国民宿舎「くろさき荘」での新年初打ちや村内でのイベントなどに出演。平成15年11月23日には結成10周年を記念し、念願の「あすか組」とのジョイントコンサートを開いた。しかし稽古のきつさゆえか、後継者不足にも直面していた。